

「地域ぐるみで子どもを育む」 三条キャリア教育バンクの挑戦

～ふるさと「よさ」を語り、「未来」をつくることのできる人材育成へ～

1 はじめに

三条市は新潟県のほぼ中央に位置し、金属加工業が盛んな全国有数の「ものづくりのまち」として知られています。江戸時代から続く和釘づくりの伝統を受け継ぎつつ、高度な加工技術を活かした成長ものづくり分野を始め、多様な交通・物流インフラ、小中一貫教育を中心とした教育環境、豊かな自然環境が特徴的な地方都市です。

三条市教育委員会では、これらの三条市の特色を生かしたキャリア教育を学校教育の中核として推進しています。特に、令和7年1月15日に開設した「三条キャリア教育バンク」（以下「バンク」という）を通して学校と産業界のニーズを結び付けると共に、新たな価値を生み出す「これまでにない教育プラットフォーム」づくりに挑戦しています。

2 挑戦の背景

バンク開設の背景には、2つの時代の変化がありました。

1つは、産業界を取り巻く人手不足・担い手不足の深刻化です。特に、感染禍以降、地元産業界から「まず自社を子供たちに知ってほしい」「学校と連携してものづくりの楽しさや価値を知らせたい」というニーズの高まりが見られました。

もう1つは、教育界を取り巻く教員不足と教員の多忙化です。三条市勤務が初めて、三条市に来ること自体が初めてという教員も少なくありません。また、三条市のことを知ろうにも、日々の業務に追われ、その時間が取れず、子供たちのニーズに合った事業者の存在を知らない現状が見られました。この変化は、一見マイナス面と捉えがちですが、逆に見れば、互いに非常に強いニーズを有しているとも言えます。ただ、学校・事業者それぞれに、このニーズの充足方法を任せても、正直うまくはいきません。互いにとって、必要感は分かっているにもかかわらず、優先順位が低いからです。

そこで、互いのニーズをマッチングし、少しでも連携した体験活動に結び付きやすくする仕組みとして、バンクの構想が膨らんでいきました。なお、開設に向けた検討会議では、市長部局経済部商工課と三条商工会議所から、毎回御助言を頂き、互いにバンクのイメージ図（図1）を共有していきました。

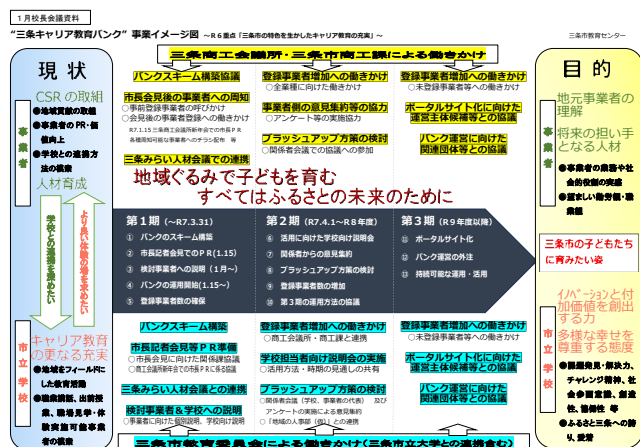


図1 三条キャリア教育バンク事業イメージ図(開設前)

3 三条市のキャリア教育

三条市では、キャリア教育を「自分と実社会のつながりを実感し、未来を切り拓く学び」と捉え、「よさ」を語れる、「強み」を生かせる、「共に」やり抜けるの3つの子供の姿の具現化を目指しています。

そこで、令和7年度に、学園（※1）単位の小中一貫教育カリキュラム「キャリア教育編」を作成し、学園ごとに「職業的自立」と「社会的自立」の両面で重視する資質・能力を定めています。（図2）

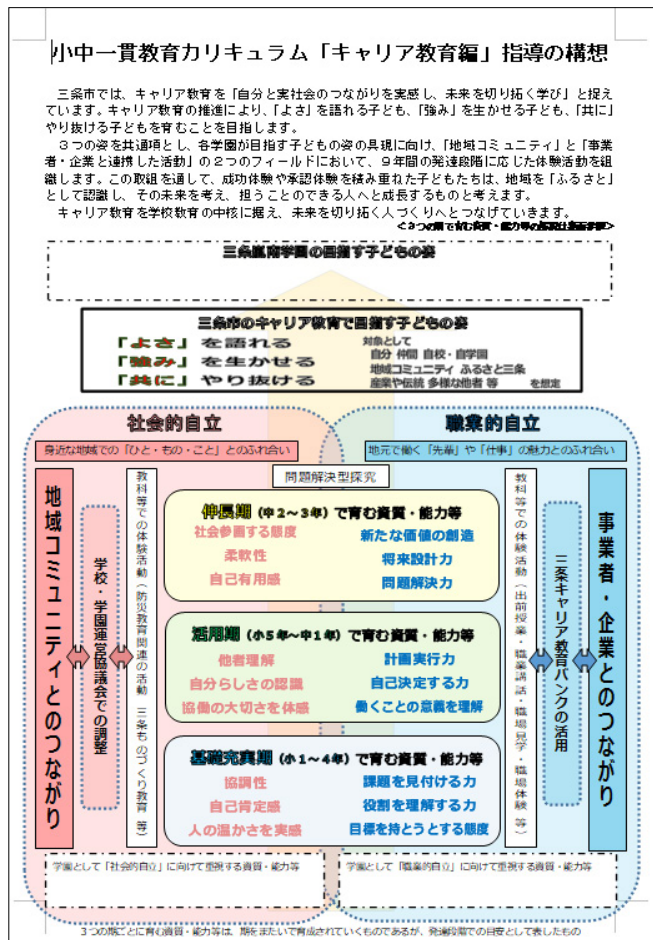


図2 小中一貫教育カリキュラム「キャリア教育」編

この小中一貫教育カリキュラム「キャリア教育」編をもとに、地域をフィールドにし、実社会とつながりをもった教育活動を推進する上で核となるのが、「三条キャリア教育バンク」であり、「学校・学園運営協議会（※2）」

となっています。

4 三条キャリア教育バンクとは

一言で言えば、「事業者のニーズと学校のニーズをマッチングする仕組み」です。ただし、単なる人材バンクではなく、双方向性をもつことが大きな特徴です。

登録者数は、107 事業者（令和8年8月7日現在）であり、三条市立学校の教育活動に、原則無償で御協力いただいています。

どの事業者もバンクの趣旨（詳細は登録事業者紹介サイト（※3）に掲載している登録募集チラシ裏面参照）に強く賛同していただき、「自社を知ってもらいたい」「学校と連携して子供たちに体験活動をしてもらいたい」という願いの具現のためにバンクを活用されています。

また、学校側も「体験活動に協力してもらえる事業者を知りたい」「子供たちのニーズに合わせた体験活動を行いたい」という願いを叶えるために活用しています。

現在は、主に年2回（春と夏）、学校から登録事業者への体験活動マッチング希望を市教委が受け付け、登録事業者ごとに仕分けをして連絡し、可否を確認しています。その結果についても、市教委から学校へ通知し、マッチング可となった学校は、スムーズに体験活動内容の打合せを行うことが可能となっています。（図3）

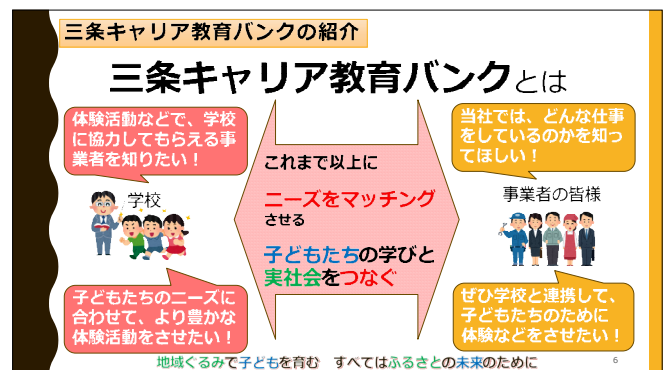


図3 三条キャリア教育バンクとは（活用説明会資料）

5 事業推進の取組

新規事業だけに、知名度を向上させることと事業の価値を周知することに苦心しながらも、より取組の効果を上げるべく、次の7点の取組を三条市教育委員会が主体となって進めてきました。

①市長からの発信

開設については、令和7年の新年1回目の市長記者会見における最初の会見内容として公表しました。翌日以降、地方新聞を含め4つのメディアから取り上げてもらいました。また、市長と共に担当者がラジオ番組にも出演し、周知を図ってきました。(市長記者会見は、その後もう1回実施)

②チラシによる登録依頼

数ある地元事業者に対して、1者でも多くの登録を促すために、登録事業者募集チラシ(図4)を作成し、次の手法で配布しました。

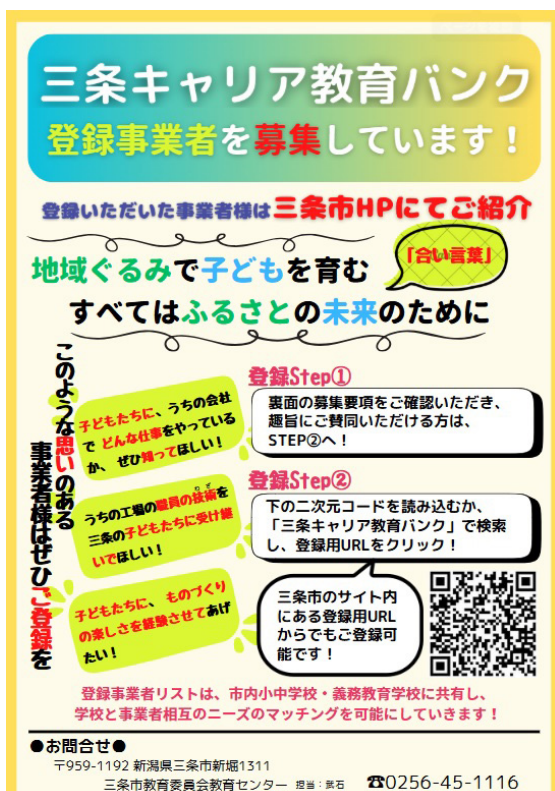


図4 三条キャリア教育バンク登録事業者募集チラシ

ア: 令和7年度、市内28校の学校教育活動に協力していただいた事業者(約200者)に対する郵送

イ: 三条市商工課が把握している事業者宛て(数百者)へのチラシ添付メール送信

ウ: 三条市商工会議所の一斉FAXによるチラシ送信(数千者)

エ: 未登録事業者との連携時における学校の先生方からのチラシ配布(最も効果有り!?)

③登録依頼訪問

もちろん、教育委員会事務局職員も数多くの事業者へ登録依頼訪問を行いました。商工会議所の会員、登録事業者からの紹介、市長等からの声かけによりつながりを持つことができた事業者を訪問しました。また、9つの学園別、事業種別により分けた登録事業者マトリクス表を作成し、ターゲットを絞った訪問も行いました。

なお、御登録いただいた事業者には、登録証を発行すると共に、登録マークのデータ(下図参照)も提供しています。

登録事業者の中には、店舗のレジ脇に飾っていただいたり、名刺のデザインに入れていただいたりしている方もおられます。

④バンク活用説明会(毎年4月開催)

4月に三条市に赴任された先生方も多いこと、また年々バンクの仕組みもブラッシュアップされることから、毎年4月に、教員向け活用説明会を実施しています。



マッチングの時期や方法を共有するだけに留まらず、県内のコンサルティング企業の方を講師に招き、学校が事業者(地域)とチームになって子供を育てるポイントについての講話を取り入れています。このことで、先生方が、活動を進める上での留意点を実感を伴った形で確認し、取組への活力を高めることができています。

⑤バンク活用ハンドブックの配布

活用説明会で御講話いただいた方からは、「三条キャ

リア教育バンク活用ハンドブック」(図5)も作成していただきました。このハンドブックは、先生が事業者との連携における事前・当日・事後に行うことなどについて、6つのステップで分かりやすく記載してあります。地元の経済新聞にも取り上げられ、まさに三条市に勤務した先生のみが使えるバイブル的なハンドブックとなっています。



図5 三条キャリア教育バンク活用ハンドブック

⑥ バンク成果報告会（年度末に開催）

開設して1年が経った令和8年2月24日に、初年度事業への感謝と今年度の活動報告を趣旨として、成果報告会を実施しました。

当日は、三条市立学校の先生方、登録事業者、一般の事業者で、対面・オンライン合わせて60名を超える御参加がありました。会では、2事業者及び2校の先生からの事例紹介やパネルディスカッションを行い、どの参加者からも高い評価をいただきました。特に「バンクによって、社員のモチベーション向上につながった」



三条キャリア教育バンク成果報告会パネルディスカッションの様子

という声を複数の事業者から頂き、初年度としては満足 of いく取組になったのではないかと感じられました。

⑦ 三条の人事部コンソーシアムとの連携

三条市経済部商工課が立ち上げた地域の人事部である三条の人事部コンソーシアムに、三条市教育委員会教育センターがバンクの創設・運営事務局として参加しています。キャリア教育推進の班に所属し、バンクの更なる知名度向上にお力添えを頂いています。今後も、小中高におけるキャリア教育の連続性・系統性の検討などで、産官学の連携を進めていければと考えています。

6 成果と課題

特に強く感じている成果は、事業者側からの学校に対する「距離感」を縮めることができたことです。事業者からは、「我が社を知ってもらう良い機会になった」「将来の働き手に繋がる期待感がある」といった声を頂いたことは、その証左であると考えています。

ただ、課題は山積みです。何より、事業者数が少ないこと、それに伴う知名度不足が最大の課題です。確かに、実利がある訳でもなく、将来の「種まき」にしかならないかもしれない小中義務教育学校との連携には、大きな魅力は感じられないかもしれません。ただ、「大都市などとの人材の綱引きに負けない」三条市となるためにも、今後もひたむきに周知を行い、いつの日か「三条といえば『キャリア教育バンク』」と言われる日を夢見て登録事業者確保に邁進する覚悟です。

7 これからの挑戦と将来像

今年度、バンク登録事業者を紹介するHPの改修予算を計上し、次年度に向け、利便性や操作性の高まる新たなHPの構築を進めています。しかも、新HPには「双

方向性機能」という、事業者・学校の互いのニーズを見える化し、マッチングもほぼ完結できる仕組みを兼ね備える予定です。

これまで聞いたこともない「双方向性機能」を備えたバンクは、間違いなく学校側の業務の効率化を図ると共に、事業者側の学校へのアプローチをしやすくし、新たなマッチングを含めた価値の創造を生み出すものと期待しています。

そして、このバンクを通した多様な体験活動を通して、三条に生まれ育った子供たちが、ふるさとの「よさ」を語り、いずれはこの地の「未来」を担い、切り拓く人材となっていくものと信じています。

※1 中学校区、小中一貫教育の推進を図るため、三条市では9つの中学校区に、それぞれ独自の学園呼称を定めています。

※2 学園ごとにも運営協議会を設置し、学園内の各学校の代表者等が参集して、学園のグランドデザインの承認や教育課題の熟議等を行っています。全国的にもめずらしい取組であり、三条市では、令和2年から学校運営協議会と共に導入しています。

※3 三条キャリア教育バンク登録事業者紹介ページ

<https://www.city.sanjo.niigata.jp/soshiki/sanjoukyouiku/kyoikuiinkaijimukyoku/gakkoukyouikuka/gakkou/career/18919.html>